

♪ 2021年度 **poco a poco** ♪

Nr. 7 2021年6月17日(木)

文責:プファイル・辰巳

Erdbeeren, Wassermelone, Kirschen.....

いちごにスイカ、さくらんぼ…。果物が美味しい季節になりました。一雨ごとに畑の作物もニョキニョキ育っているような気がします。

コロナの感染状況も随分と落ち着いてきており、街行く人たちにも笑顔が戻ってきましたね。

学校でも、子どもたちが徐々に通常に近い形で授業を受けられるようになりつつあります。7月7日(水)に変更となった運動会に向けての練習も、それぞれの学年で始まったようです。楽しみですね。



1学期のミニコンサートについて

昨年度(2020)は、コロナ感染予防のため、とうとう3回ともミニコンサートを開催することができませんでした。今年度こそはと思っていましたが、1学期現在の状況は、音楽科の授業で中心となるべき「合唱」と「鍵盤ハーモニカ・リコーダー合奏」が屋内では未だできないでいます。また様々な行事が中止・延期になる中、年間行事予定表で1学期ミニコンサートとして予定されていた7月8日の前日が運動会の期日となってしまいました。これらの状況を鑑みて、音楽科では大変残念なのですが1学期のミニコンサートは見送り、2学期・3学期の開催を目指すことといたしました。ご理解をお願い申し上げます。

また2学期以降の開催方法については今後検討してまいります。その際にはご協力、ご声援をよろしくお願いいたします。

音楽こぼれ話 <楽譜出版のお話 ⑤

Casa Ricordi>



ドイツの音楽出版社はまだまだあるのですが、今回はイタリアへ飛びます。

リコルディ社は、ジョヴァンニ・リコルディにより、1808年、ミラノで創業されました。もちろんその他の作品も出版していますが、やはりヴェルディやプッチーニなど、イタリア・オペラの作曲家の作品を数多く出版しています。

18世紀の音楽界では新曲ばかり演奏され、古い作品が再演されるということはあまりなかったそうです。19世紀に入るとこの状況は一転し、プロの演奏家はもちろんアマチュアの演奏家も様々な曲を演奏するようになり、楽譜の需要が急増しました。この波をいち早く感知し、出版業を立ち上げたのがリコルディでした。

リコルディは早々にスカラ座などの劇場や、ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニ、ヴェルディ、プッチーニといったイタリアの大作作曲家たちと契約を結び、イタリアの音楽出版業界を牛耳るようになりました。ジョヴァンニの息子の時代になると、リコルディ社はイタリア国内だけではなく、ロンドン、パリ、ミュンヘン…とヨーロッパ各地に進出していきます。そしてその国々のグランドオペラ作曲家たちとも契約を結んだりしました。

このようにして業績を伸ばしてきたリコルディ社は、現在は家族経営から転身、大手総合会社の傘下に入りましたが、それでも作曲家の自筆譜や書簡など貴重な資料を保持し、楽譜出版のレパートリーも充実しています。

ちょっとだけ 演奏会情報 ~Mainzer Kultur Gärten im Schloss~

マインツのカルチャー・ガーデン(城内中庭で開催)

6月から9月にかけて、マインツにあるお城の中庭では、特設舞台が設置され、毎週水曜日から日曜日までの連日、様々な催し物を見たり聴いたりすることができます。コメディ風の演劇あり、ジャズあり、ギター演奏あり…。地元の芸術家たちの演技や演奏に出会うことができます。有料チケットが必要なもの、無料で聴けるものなど演目によって様々です。席は予約制で、飲み物や軽食を取りながら鑑賞できます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

ウェブ: www.mainzer-kulturqaerten.de

場所 Kurfürsten Schloss

Peter-Altmeier-Allee 9, 55116 Mainz